れた。爾後この種の處分の例となつた。

タカバタケヨシナリ　高畠慶成　通稱源四郎・猪太夫。享保元年父吉右衛門定成の遺知百石を襲ぎ、御近習番となり、後に五十石を加へた。慶成字は之善。大地昌言の門人として、思を六經に專らにすること三十年。その見る所往々師の右に出づるものがあつた。藩侯前田治脩の初めて治に就いた時、屢慶成をして經を講ぜしめて之を聽いた。著す所に四書和讀考二卷あつて、和讀の要領を記してゐる。

タカバタケヨネツミ　高畠米積　金澤の市人。通稱鍋屋伊兵衛、諱は米積、號を有賀の屋といふた。藏宿を業とし、歌學を田中躬之に習うてその高足となり、又狂歌を作つた。明治二年以降多太神社・小坂神社の祠人となり、三浦俵三といひ、十年六月二十日七十五歳を以て歿。

タカバタケヨネモリ　高畠米護　諱は米護、幼名得太郎。紀堂と號し、米積の子であつた。歌を田中躬之に學び、家會を起して門人を敎導し、明治三十四年五月十六日歿した。年七十二。著す所に紀堂茶話があつて刊行せられた。躬之等の歌を集めた圃の菊も、亦米護の編したものである。

タカハマ　高濱　羽咋郡大念寺新を明治二十二年六月改稱したものである。

タカバヤシオウテン　高林櫻顚　名は延子。御馬廻宮崎彌左衛門の二女で、高林景寛に嫁した。歌を田中躬之に學び、數千首の詠がある。明治廿一年七十八歳で歿。

タカバヤシカゲヒロ　高林景寛　初名久津見宣。字は子栗、蒼翠園又は晩翠と號した。組外に列し、弘化二年御作事奉行兼能美郡代官となり、慶應二年京都に于役し、三年本吉湊裁許となり、明治二年致仕した。景寛歌を田中躬之に學び、白山百首の著がある。明治十四年歿、享年七十四。

タカハラゴウ　竹原郷　江沼郡の古郷名で、和名抄に『竹原、多加波良』とあるものである。越登賀三州志來因概覽には、今の瀧ヶ原村をその遺であらうとしてゐるが、瀧ヶ原は江沼志稿に瀧がある爲の邑名であるといふから、前說は信じられぬ。

タカハン　高半　江沼郡二ッ屋の内の小字。

タカバンダイ　高番代　藩政の時、掛作の田地等に在つて、他人の所有する高を、自己の持高なる如く作配するものをいふ。この場合に高主は、高番代から地代として用米若干を受くべき契約を結ぶ外、一切高番代に任かすものである。寺社百姓・町人百姓が之を置いた。もとは百姓でも窃かに置くものもあつたが、享和以降之を禁じ、犯す者はその高を沒收せられることになつた。

タカバンドリ　高番取・鳳至郡下山の内の小字。

タガヒデタネ　多賀秀種　初諱政藤・秀家。小字源千代、後源助・大炊・左兵衛・出雲。美濃の人。父は堀秀重。初め多賀信濃守貞能の女婿となり、織田信長に仕へたが、貞能の除邑せられたと共に、佐和山侯堀秀政に仕へて二千石を受け、後に八千石となつた。次いで秀政の卒後羽柴秀長に轉仕し、出雲守に任ぜられ、秀長及びその子秀保の卒した後は豐臣秀吉に屬して二萬餘石を受け、關ヶ原役に西軍に應じ、謫を得て越後に配せられ、鳴庵と稱したが、京師に赴きて罪を赦され、大坂冬役には處士を以て從軍し、翌年前田利常に來仕して六千石を受け、夏役に組外を率ゐて出陣し、元和二年五十二歳を以て歿した。法號は賢翁宗晉居士。秀種博覽多識、和漢の典籍を涉獵した。その著越後在府日記三册には、語釋と敎訓歌に關することが多く記されてゐる。

タガヒデノリ　多賀秀識　通稱大炊・左兵衛。秀種の二男。慶長十年前田利長に仕へて奥小將となり、五百石を受け、大坂再役に小々將裁許として出陣し、父の歿後家を襲いで四千石を領し、人持組に列したが、寛永七年六月狂疾に罹つてその妻を殺し、己亦自刄した。年四十三。子直定祿を減じて家を襲いだ。

タカヒラ　高平　加賀の刀工。この國に來住した初代兼若甚六のことで、後に越中守を受領し、名を高平と改めた。その受領は現存の作品により考へるに、元和七年八月以降十二月までの間に在るらしく、世に二年八月又は五年八月のものも存するが、是等は後人の追銘であらうと言はれる。寛永四年又は五年歿。

タカヒラ　高平　加賀の刀工。又助兼若の二子。幼名又八、後傳右衛門。越中守高平三男兼若二男加州金澤住辻村高平延寶二年八月吉日、金澤泓河(堀川カ)住辻村高平延寶三年八月日今枝直方之需作之、加州辻村出羽守藤原氏高平元祿九年二月大吉日四十六歳作之などと銘じ、現存作品は元祿九年八月を最終とするやうである。三州鍛冶系圖に、この高平が出羽守を受領したを元祿三年とするが、辻村出羽守高平元祿二年二月大吉日と切つた作品が既に存する。

タカブチヤマ　高淵山　→コウノスザン鷄巢山。

タカフノ　竹生野（タコノ）　羽咋郡押水北庄に屬する部落。

タカベシヨウ　高部庄　明月記に、藤原定家がその所領能登高部莊のことに就いて入道忠弘を派遣したことが記され、忠弘は寛喜元年十月五日下向の途に就き、翌年二月七日歸洛した。高部莊の所在は今明らかでない。或は和名抄の高家郷と關係のあるものでもあらうか。→タカヤゴウ　高家郷。

タカベヤ　鷹部屋　藩侯の鷹部屋は、初め金澤淺野川端で後に前田兵部邸のある地に在つたが、寛文中小立野に轉じた。

タカホラヤマ　高洞山　江沼郡曾宇・直下の南方、越前の國境に在り、地圖の四八二米地點で、石英粗面岩から成る。越前名蹟考坂井郡野々村の條に、『高洞ヶ嶽、加賀堺』とあるもの之に當る。坊間の地圖江沼郡三木村と坂井郡坪江村との間に高洞山と記するものがあるが、それは妙高山である。

タカホリカイホツ　高堀開發　鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目錄に、『高堀開發、四段、承久元年檢注田定』と見える。

タカマガハラ　高天ヶ原　白山御前岳の室平から絶巓に至る間に在る。小原益の白山紀行に、『室より御本社まで八町、一文字登りなり。始めて登る坂を御前坂といふ。此坂を登りて天照皇太神の御社あり。此所を高天原といふ。天照皇御降誕の地といふ。』また畔田伴存の白山草木志にも、『室より御本社まで八